泉屋博古館東京
SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM TOKYO

泉屋博古館東京(東京・六本木)　2023 年展覧会スケジュール

泉屋博古館東京(旧・泉屋博古館分館)は 2022 年 3 月リニューアルオープンしました。おかげさまをもちまして、記念展Ⅰ－Ⅲでは多くのお客さまにご来場いただくことが叶い、改めて御礼申し上げます。2023 年は下記の展覧会を開催予定です。チケットプレゼントはすべての展覧会におきましてご提供可能です。何卒宜しくお願いいたします。

泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅳ

不変／普遍の造形

―住友コレクション中国青銅器名品選―

2023 年 1 月 14 日(土)－2 月 26 日(日)

東京館のリニューアルオープン記念展の掉尾を飾るのは、住友コレクションの象徴、中国青銅器の名品たちです。およそ 3000 年前の古代から受け継がれ、東アジアの美術工芸の源となった中国青銅器。造形や文様、銘文、鑑賞の歴史など、さまざまな角度からその魅力を余すことなくご紹介すべく、住友コレクションの選りすぐりの名品を一堂に会する特別な機会となっています。また今回の記念展にあわせて 3D 計測を用いたデジタルコンテンツを制作し、展示会場にて公開いたします。古くて新しい中国青銅器の世界をぜひお見逃しなく。(単館開催)

おもな作品：《虎卣》(こゆう)　殷後期(前 11 世紀)　泉屋博古館
《饕餮文方罍》(とうてつもんほうらい)　殷後期(前 12－前 11 世紀)　泉屋博古館

特別展

大阪市立東洋陶磁美術館

安宅コレクション名品選 101

2023 年 3 月 18 日(土)－5 月 21 日(日)

日本有数の東洋陶磁の名品を所蔵する大阪市立東洋陶磁美術館。その中核をなすのが、安宅産業株式会社の安宅英一氏(1900-1994)の美意識によって収集された約 1,000 件におよぶ東洋陶磁コレクションです。かつて散逸の危機に直面した「安宅コレクション」を大阪市に寄贈し、美術館建設に寄与したのが、大阪を基盤とする住友グループでした。本展では、安宅コレクションから国宝 2 件、重要文化財 11 件を含む名品 101 件を選び、珠玉の東洋陶磁を紹介します。(単館開催)

おもな作品：
国宝《油滴天目茶碗》南宋時代　12-13 世紀　住友グループ寄贈／大阪市立東洋陶磁美術館
《粉青鉄絵　蓮池鳥魚文　俵壺》高麗時代　12 世紀　　住友グループ寄贈／大阪市立東洋陶磁美術館

泉屋博古館東京
SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM TOKYO

特別展

木島櫻谷　－ 山水夢中

2023 年 6 月 3 日(土)－7 月 23 日(日)

(巡回：泉屋博古館
2022 年 11月3日(木・祝)－12月18日(日))

近代の京都画壇を代表する存在として近年再評価がすすむ日本画家・木島櫻谷(このしま・おうこく 1877－1938)。動物画で知られる櫻谷ですが、生涯山水画を描き続けたことも見逃せません。日々でかけた京都近郊から毎年の旅行まで、青年時代に日本各地の風景を写生した成果は、西洋画の空間意識も取り入れた近代的山水画を切り拓くこととなりました。一方、幼い頃より漢詩に親しみ、また中国や日本の古画を愛した櫻谷は、次第に中華文人の理想世界を日本の風景に移し替えたような、親しみやすい新感覚の山水表現に至ります。本展では風景スケッチやコレクションした絵画や盆石もあわせて紹介。多彩な山水画を一望しながら、根底にあり続けた心の風景を探ります。

おもな作品：木島櫻谷《万壑烟霧》明治 43 年(1910)　株式会社千總
木島櫻谷《駅路之春》大正 2 年(1913)　福田美術館

企画展

楽しい隠遁生活

―文人たちのマインドフルネス

2023 年 9 月 2 日(土) －10 月 15 日(日)

東洋の山水画には、生き方の理想や文学的なテーマが隠されています。とりわけ文人画には、厳しい現実から逃避するために積極な隠遁をめざす「過激な」隠遁から、田舎暮らしのスローライフを求める「楽しい」隠遁まで、実に多種多様な隠遁スタイルが見いだせます。
「今この瞬間に意図的に意識を向け、評価をせずにとらわれのない状態で、ただ観ること」を楽しんだ中国や日本の文人たちのマインドフルネスを求めて描かれた多様な隠遁スタイルを紹介します。
(単館開催)

おもな作品：田能村竹田《梅渓閑居図》文政 10 年(1827)　泉屋博古館
橋本雅邦《許由図》明治 33 年(1900)　泉屋博古館東京
山崎朝雲《竹林の山濤》大正元年(1912)　泉屋博古館東京

泉屋博古館東京
SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM TOKYO

特別展

日本画の棲み家

2023 年 11 月 2 日(木)ー12 月 17 日(日)

明治時代における西洋文化の到来は、絵画を鑑賞する場に地殻変動をもたらしました。特に展覧会制度の導入は、床の間や座敷を「棲み家」とした日本絵画を展覧会場へと住み替えさせました。その結果、巨大で濃彩な作品が増えるなど、新しい「家」にふさわしい絵画表現へと大きくシフトしていきます。このような時代のなかで集められた住友の日本画は、むしろ邸宅を飾るために描かれたもので、来客を迎えるための屏風や床映えする掛軸など、展覧会を舞台とする「展覧会芸術」とは逆行する「柔和な」性質と「吉祥的」内容を備えています。

本展では、今日その姿を消しつつある日本画の「棲み家」に光を当てることで、床の間や座敷を飾る日本画の魅力とその行方を紹介します。(単館開催)

おもな作品：望月玉泉《雪中蘆雁図》明治 41 年(1908)　泉屋博古館東京
狩野芳崖《寿老人図》　明治 10 年代前半頃(1877ー82)泉屋博古館東京
西川一草亭《春芳秋卉図》昭和 8 年(1933)　泉屋博古館東京

《基本情報》

館　　名：泉屋博古館東京(せんおくはくこかんとうきょう)
SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO
住　　所：東京都港区六本木 1-5-1
電　　話：050-5541-8600(ハローダイヤル)
観 覧 料：一般　　企画展 1,000 円(800 円)・特別展 1,200 円(1,000 円)
高大生　企画展 600 円(500 円)・特別展 800 円(700 円)
※20 名様以上の団体のかたは(　)内の割引料金
※障がい者手帳等ご呈示のかたはご本人および同伴者一名まで無料です
※展覧会により料金が変更になることがあります

開館時間：11:00ー18:00(入館は 17:30 まで)※金曜日は 19:00 まで(入館は 18:30 まで)
休 館 日：月曜日(祝日の場合は翌平日)、展示替え期間中、年末年始
U　R　L：https://sen-oku.or.jp/tokyo/

＊読者様へのチケットプレゼントはすべての展覧会におきましてご提供可能です。印刷スケジュール上、お送りは該当展覧会開催の２ー３か月前になりますこと、あらかじめご了承ください。

《お問い合わせ先》　泉屋博古館東京(広報担当　橋本旦子)
TEL: 03-3584-8136　FAX: 03-3584-8137
E-mail : pr-tokyo@sen-oku.or.jp

泉屋博古館東京
SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM TOKYO

提供可能画像・キャプション一覧

泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅳ　不変／普遍の造形　―住友コレクション中国青銅器名品選―

《虎卣》（こゆう）
殷後期（前 11 世紀）
泉屋博古館

《饕餮文方罍》
（とうてつもんほうらい）
殷後期（前 12－11 世紀）
泉屋博古館

特別展　大阪市立東洋陶磁美術館　安宅コレクション名品選 101

国宝《油滴天目茶碗》
南宋時代　12-13 世紀
住友グループ寄贈／
大阪市立東洋陶磁美術館

《粉青鉄絵　蓮池鳥魚文　俵壺》
高麗時代　12 世紀
住友グループ寄贈／
大阪市立東洋陶磁美術館

特別展　木島櫻谷　－ 山水夢中

木島櫻谷《万壑烟霧》
明治 43 年（1910）株式会社千總

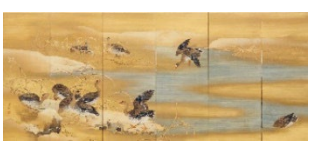
木島櫻谷《駅路之春》
大正 2 年（1913）福田美術館

企画展　楽しい隠遁生活　―文人たちのマインドフルネス

田能村竹田《梅渓閑居図》
（部分図）
文政 10 年(1827)
泉屋博古館

山崎朝雲《竹林の山濤》
大正元年(1912)
泉屋博古館東京

特別展　日本画の棲み家



望月玉泉《雪中蘆雁図》
明治 41 年（1908）泉屋博古館東京

狩野芳崖《寿老人図》
明治 10 年代前半頃（1877－82）泉屋博古館東京